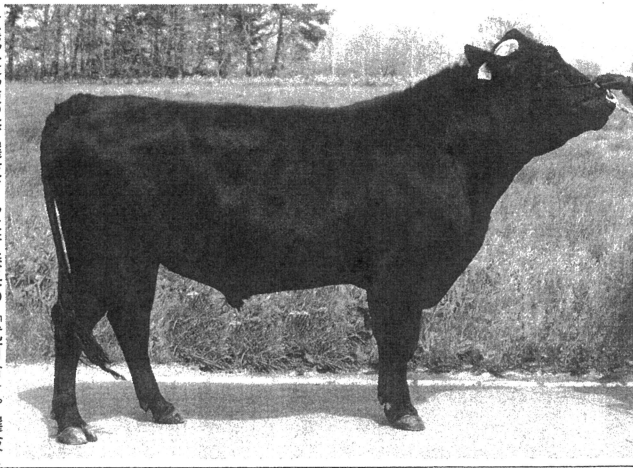


共同利用種雄牛 増体良好6頭選抜 武百合 3形質で最高成績

家畜改良センターは、広域後代検定に参加した県産種雄牛の中から、新

名号	父牛	母の父	所有県
武百合	百合茂	第1花国	青森県
勝忠安福	勝忠平	安福久	福島県
美弥桜	美国桜	福栄	島根県
勝海	茂重安福(岐阜)	平茂勝	山口県
誠華山	百合茂	勝忠平	佐賀県
系百合	百合茂	平茂勝	佐賀県



広域後代検定で選抜された青森県の「武百合」。選抜された6頭の中では、枝肉重量、ロース芯面積、日齢枝重の首種価が最高だった(青森県畜産研究所提供)

たに6頭が共同利用種雄牛に選定されたと発表された。選ばれた種雄牛は、全国で精液が利用できる。同センターによると、選定種雄牛は、全体的に増体成績が高いという。「武百合」は、今回の6頭の中では枝肉重量とロース芯面積、日齢枝重の3形質で首種価が最高だった。青森県内で多い「第1花国」が母方に入っているため、県内以上に県外で広く利用できる。県畜産研究所では兵庫系との交配を勧めている。

「勝忠安福」は福島県が震災後に造った期待の牛。「雌でも500キログラムの枝肉が取れる」と県畜産研究所は話している。

「美弥桜」は6頭中、バラ厚の首種価が最も高い。島根県では「美国桜」の後継と位置付ける。希少な城崎系の「城清」の遺伝子を1%保有しているのも特徴。

「勝海」は「茂金波」の遺伝子を40・5%保有し、「城清」の遺伝子も1・1%含む。山口県農林総合技術センターによると、枝重とバラ厚、脂肪交雑の改良効果が高い

という。「誠華山」は、「質・量兼備を狙って造成した」と佐賀県畜産試験

場。枝重、ロース芯面積、バラ厚があることから、ボリューム感のある枝ができるという。

「系百合」は6頭でBMS(脂肪交雑)の首種価が最も高かった。佐賀県畜産試験場によると、後代検定の去勢のBMSナンバールは平均で8・2だったという。

共同利用種雄牛の選定制度は、各県で生産した種雄牛を他県でも広域的に利用できる仕組み。後代検定を広域で実施し、同センターが能力評価をまとめる。広域後代検定の成績や専門家による委員会の議論を参考に、参加種雄牛の中から最終的に農水省が選定する。